県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

地域連携センター報

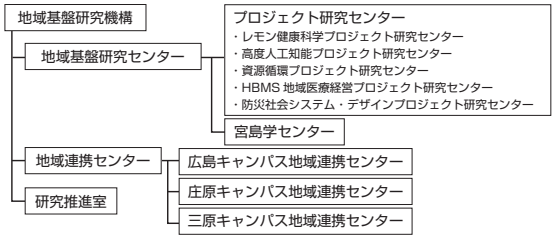
Vol. 29

REGIONAL COLLABORATION CENTER

令和元年10月31日発行

県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構が発足しました



県立広島大学は，４月１日より地域連携センターを地域基盤研究機構に改組しました。

「地域基盤研究センター」，「地域連携センター」，「研究推進室」の３本の柱によって構成され，研究を推進し成果を地域へ還元することで地域貢献を強化することを目的として活動しています（図）。

地域基盤研究センターには，宮島学センターと５つのプロジェクト研究センター（PJ研究センター）があります。研究や運営のため，本年度特命講師３名が採用され，すでに地域で活躍しています。PJ研究センターは，「レモン健康科学」，「高度人工知能」，「資源循環」，「HBMS地域医療経営」，「防災社会システム・デザイン」の５つが設置を許可され，社会を取り巻く環境の変化に適応した新しい特色ある優れた研究を行っています。

地域連携センターには，知的財産本部，安全保障輸出管理室と，各地域での相談窓口として，３つのキャンパスに地域連携センターがあります。地域連携・産学官連携の推進，リカレント教育・生涯学習等の業務を行っています。また，研究推進室は，重点研究事業（地域課題解決研究等）や学内での研究推進，研究不正防止等の業務を担当しています。

本年度から始まった履修証明プログラムは，社会人を対象とした「職業上必要な知識・技術」を修得し，キャリアアップに必要なスキルを身につけるために実施されるリカレント教育です。高度人工知能プロジェクト研究センターと総合学術研究科が「AI活用人材育成プログラム」を開講し，宮島学センターが「宮島学で学び直す世界遺産厳島神社と宮島」を開講しました。「地域に根ざした，県民から信頼される大学」の基本理念に沿って，これからも今まで以上に教職員が一丸となって邁進して参ります。

第16回脳をみるシンポジウム in 三原

「脳をみるシンポジウム in 三原」は，本学と三原市医師会，三原商工会議所，三原市からなる三原地域連携推進協議会とシンポジウム実行委員会が主催しており，2018年度で16回目の開催を迎えました。第16回は「感性による脳力アップ」をテーマとして３月２日に開催し，241名の方々にご参加いただきました。各専門分野の４名のシンポジストからご講演いただき，一般市民の方はもちろん，医療福祉専門職の方にも楽しく学んでいただきました。

当日の講演の様子

豊富な臨床経験をもとにした事例を紹介する講演や，身体を動かし会場が一体となって笑いが溢れる講演，専門的かつ最新の情報を取り入れた講演の内容に，全体を通した満足度は約８割と，好評を博すことができました。当シンポジウムは，今後も脳をとりまく課題を地域社会で共有し，健康づくりに役立てていただけるよう継続して開催する予定です。多くのご参加をお待ちしています。

広島キャンパス

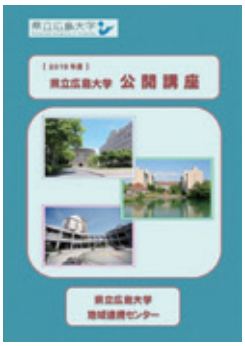
HIROSHIMA CAMPUS

公　開　講　座

公開講座パンフレット及びリーフレット発行

本学は，研究教育の成果を広く地域に公開し，社会人の教養又は技能を高め，広島県民の生涯教育を推進するため，毎年３キャンパスで公開講座を開設しています。

今年度も３キャンパスで開講を予定している公開講座の年間スケジュールを掲載した「公開講座パンフレット」及びそれをコンパクトにしたキャンパスごとのリーフレットを発行しました。受講者アンケートによれば，パンフレットやリーフレットを見て受講申込をされる人も増えてきています。



公開講座「即戦力となる人工知能人材育成のためのプログラミング講座～機械学習編～」

本学では，トップレベルの深層学習技術を研究開発した実績をもとに，社会人技術者を対象として，AI技術を活用した新たな事業・産業を創出する人材育成講座を，昨年度から引き続いて実施しています。

本講座は６月８日，15日，22日に開講したもので，本学の高度人工知能プロジェクト研究センター長の市村匠教授と同センターの鎌田真特命講師が担当し，社会人13名が参加してAnaconda，プログラムやその実行結果，説明などを記入できるJupyter Notebookを各自のノートPCにインストールし，仮想環境上でPythonによるプログラミングの基礎を学び，演習を行いました。

初めてPythonを学ぶ受講者もおられましたが，講師による丁寧な説明や演習に加え，学んだことを翌週までに復習し，不明点があれば開始前後に質問をするなど熱心に取り組み，受講者全員が，多様な機械学習の手法を学び，分類問題，回帰問題など多くのデータ分析にチャレンジしました。

また，PythonでOpenCVを利用した画像認識の基礎などを学びました。人工知能の基礎を短期間で学ぶことができる一方，教室以外でも学習することが求められた講座になりました。

本学地域基盤研究機構では，高度なAI技術を学びたいというニーズに応えるため，今後も社会人に向けた学びの機会を提供していきます。

広島市立大学との連携公開講座「ひろしま学を考える」及び「言語を通じて世界を知る」

広島県と広島市の連携強化の一環として，本学と広島市立大学とは，2013年度から毎年，連携公開講座を開講してきています。

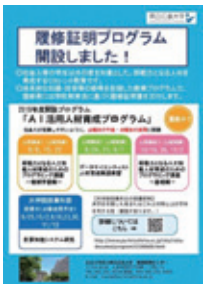
今年度も７月３日，10日，17日，24日に「ひろしま学を考える」を開講しました。ひろしま学が対象とするのは，ゆたかな自然に恵まれ，さまざまな歴史や伝統，文化，そして産業を育んできた「ひろしま」で，両大学から４人の講師がそれぞれの視点や切り口で解き明かす講座を開催し，延べ200名が受講されました。

10月５日，12日，19日，26日には，多言語・多文化についての教育プログラムを持つ両大学の特色を活かし，諸外国の文化や歴史，言語を通してその国の魅力や特長を引き出す「言語を通じて世界を知る」の開講を予定しています。

履修証明プログラム

履修証明プログラムの開設

本学は，今年度から学校教育法に基づく「履修証明プログラム」を開設しました。社会人等の学生以外の方を対象に，体系的な知識・技術等の修得を目指した一定のまとまりのある教育プログラムを提供し，その履修者に学校教育法第105条に基づく履修証明書を交付します。



履修証明プログラムは，⑴公開講座（有料）及び授業科目（科目等履修科目）の両方，又は⑵公開講座（有料）のみで構成される総時間60時間以上の教育プログラムです。今年度は次の２つのプログラム

を開設しました。

【1】AI活用人材育成プログラム
（開講：2019年６月～2020年３月）
①公開講座１「即戦力となる人工知能人材育成のためのプログラミング講座 ―機械学習編― 」
②公開講座２「データサイエンティスト人材育成実践演習」
③公開講座３「即戦力となる人工知能人材育成のためのプログラミング講座 ―基礎編― 」
④大学院授業科目「計算知能システム研究」

【2】宮島学で学び直す世界遺産厳島神社と宮島
（開講：2019年９月～2020年８月）
①公開講座１「くずし字で学ぶ宮島 ―近世資料を読み解く― 」
②公開講座２「宮島学特論」

詳細は，次の本学ホームページ「2019年度履修証明プログラムのご案内」を参照してください。
http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/rishu-shoumei/program20190608.html

地域連携・産学連携

産学官連携共同・受託研究セミナー

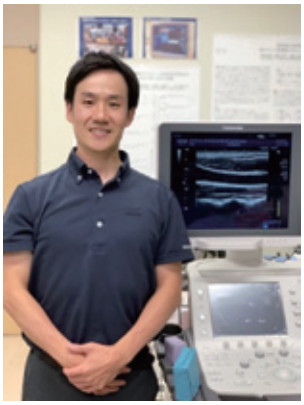
２月14日に，地域連携センターの西川洋行准教授による教職員を対象にした産学官連携共同・受託研究セミナーを広島キャンパスにおいて（三原と庄原キャンパスにも同時配信）開催しました。このセミナーは地域の企業や自治体等との連携の際に必要となる手法や手続きについての理解を図ることを目的としています。

講演においては，外部資金の種類と連携（契約）の方法に関し，資金獲得の目的や契約の必要性及び注意点などについての詳細な説明がありました。また，本学でも多く実施されている共同研究及び受託研究に関し，目的と目標，研究計画の策定，相互理解と意思疎通，進捗管理と計画修正，更に研究成果の活用など，学内外において問題となりがちな注意点について，これまでの経験も踏まえられた実践的な講演が行われました。全キャンパスから32名の受講者があり，産学連携や共同・受託研究を行う際の知識を深めることができました。今後の産学連携活動や共同・受託研究活動の一層の推進に活用していきたいと思います。

研　究　紹　介

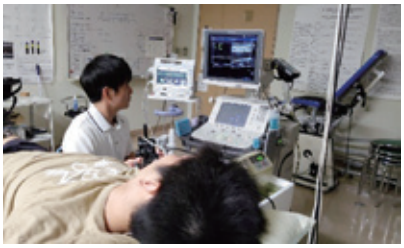
生活習慣の良否が動脈の硬化度・機能に与える影響 ―食事・運動・休養の相互作用―

人間文化学部健康科学科　助教　鍛 島 秀 明



「どうしたら健康になれますか？」と，地域の方々からよく相談をいただきます。既存の科学的証拠や自身の研究成果に基づいて，食事・運動・休養（睡眠・温浴）について指導をさせていただくわけですが，うまくいくときもあれば，そうでないときもあります。ライフスタイルや健康に対する価値観が多様化している現代において，「これさえやっていれば大丈夫」という方法はおそらくありません。不健康な生活習慣（過食，欠食，早食い，運動不足，不眠，喫煙，等々）を減らし，健康的な生活習慣（バランスの取れた食事を規則正しく，適度な運動，良質な睡眠）を一つでも多く日常生活に取り入れ，継続することが大切なのですが，それは決して容易なことではありません。「これはできるけど，これはできない」といった状況は当然ありますし，できる・できないの組み合わせは千差万別です。一方，生活習慣の良・悪の相互作用が健康へどのような影響を与えるのかについては不明な点が多く，これからの研究分野であると私は捉えています。

このような背景を踏まえて，私の研究グループでは，身近な生活習慣である食事・運動・休養の相互作用が動脈の硬化度・機能に与える影響と，その背景にあるメカニズムの解明に取り組んでいます。動脈の硬化度・機能の評価には，医療現場で汎用されている超音波診断装置を用いて行います。超音波診断装置を使い研究を始めて今年で10年目になりますが，その実力は世界の名だたる研究者には遠く及びません。今後も，自己研鑽に励み，健康づくりの一助となる研究成果を世界に発信し続けたいと考えています。



庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

産学官連携

しょうばら産学官連携推進機構総会

７月２日に当機構の令和元年度理事会・総会を庄原商工会議所にて開催しました。約30名の出席者のもと，全ての議案について原案どおり承認されました。

今年度の事業方針は産学官連携の基礎である「マッチング」事業を特に重点的に進め，徹底した事業化支援や農商工連携を促進します。加えて，県内外の事業者や広島県，庄原市，庄原商工会議所及び本学等15機関で構成されるコンソーシアムにおいて，「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に取り組みます。

三次イノベーション会議総会

６月４日に三次市役所にて本会議総会を開催しました。本会議は三次市の産官学連携推進を目的に，三次市，三次商工会議所，三次広域商工会，三次市内の事業者代表及び本学が構成員となっています。総会では特別講演会や本学との連携予算等の事業計画を承認しました。また冒頭の新市長の挨拶では，薬草による地域振興の思いが語られました。

主催講座

本学主催公開講座

「成分分析の活用方法とその課題」をテーマに，７月４日に表にあるタイトルで実施しました。他の商品や作物とどのように差別化するか，またはどう宣伝するかが重要であり，それに対応する講座となりました。学生も含め聴講者は15名でした。参加者からは好評の評価を得ることができました。同様の講座を来年度も継続したいと考えています。

回	講座名	講師
1	機能性成分をどのようにみつけるのか	生命環境学部 准教授　長尾則男
2	成分プロフィールの活用方法	人間文化学部 助教　馬渕良太
3	フィールドCの植物・栽培作物の機能性研究紹介	生命環境学部 准教授　甲村浩之

言語文化生涯学習講座

３月４日からの４日間，本学庄原キャンパスにて，13回目となる標記講座を行いました。「外国語学習への誘い」をテーマとして，様々な外国語を取り上げ，言葉そのものの面白さや上手な学び方について４名の講師が語りました。延べ52名の参加があり，皆さん大変熱心に聴講されました。

回	講座名	講師
1	身近な古典ギリシア語	総合教育センター 准教授　大草輝政
2	さまざまな文字：モンゴル語を例に	総合教育センター 准教授　河村和也
3	言葉は誰のものか：台湾の日本語を事例に	地域連携センター 准教授　上水流久彦
4	発信する英学：地域の情報を英語で伝えるために	生命環境学部 教授　馬本勉

共催講座

庄原市民公開講座

「性について考える」をテーマに，庄原市教育委員会と本学の共催で市民公開講座を６月27日，７月２日，８日，18日の日程で実施しました。延べ50人の参加があり，３回以上出席された10名の方に修了証書を渡しました。

回	講座名	講師
1	えっ! アスパラにも性別があるの? —野菜の性について考える—	生命環境学部 准教授　甲村浩之
2	同性どうしの結婚と家族を中心に　LGBTについて考える	保健福祉学部 准教授　澤田千恵
3	私は男? それとも… —異性装の物語『とりかへばや』から考える—	人間文化学部 教授　西本寮子
4	性を制御する～生殖技術と倫理的問題	生命環境学部 准教授　阿部靖之

研　究　紹　介

庄原地区の大気及び水のモニタリング

生命環境学部環境科学科 助教 柳　下　真由子

環境中に放出される化学物質の数は多く，それらの有無や存在量を物質毎に測定する手法（ターゲット分析法）では限界があります。

そこで近年，対象とする物質を絞り込まずに測定を行う，ノンターゲット分析法が着目されています。これまでに行ったノンターゲット分析の結果より，環境水試料からは数千もの物質が検出されることが分かっています。それらの物質を包括的かつ連続的にモニタリングするには簡易的な手法を利用し，常日頃からデータを集めておく必要があります。そのデータを平時の情報として保有しておき，災害等が発生した場合に即座に異常を検出できるようなシステムを考えています。このような手法で庄原地区の大気及び水のモニタリングを行い，庄原地区特有の地形や気候を踏まえた議論を展開したいと考えています。

地域の方々が日々感じておられる大気や水の汚染について参考情報として得た上で調査をすることで，研究成果を地域・社会に還元できるようにしていく所存です。

交　流　活　動

広島大学ダイバーシティ研究センター・農研機構西日本農業研究センター訪問

広島大学ダイバーシティ研究センター（センター長　大池真知子教授）を３月18日に庄原地域連携センター長入船浩平教授（当時）を団長に教職員11名で訪問しました。ビジネスにおける女性活躍促進，新たな入管制度を見越した多文化共生，女子学生の就職支援や性的マイノリティの学生サポートに関して，広島大学の取り組みを聞き，意見を交換しました。この訪問を契機に本学と広島大学の教員による広島多文化共生研究会を立ち上げ，広島県庁との連携も図っています。

３月25日は，研究教育上の相互交流を深めるため，農林水産省の研究機関である福山市の農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センターを訪問しました。教員，留学生を含む学生，フィールド科学教育研究センタースタッフの総勢19名が参加しました。同施設の研究概要の説明を受け，圃場の見学を行った後，意見を交換しました。組織間交流は初めてで，互いに収穫のある交流会となりました。継続的に実施する要望もありました。

地域連携　国営開発により創設された営農団地内の沈砂池・調整池の水質改善について

日本のような中緯度域では，水を貯めると必ず水質は悪化します。一方，中国地方では水稲に必要な水を確保するためにため池などに頼らなければなりません。世羅町では，国営開発により創設された営農団地内の沈砂池・調整池の水質の悪化が進んでいる場所があり，水質改善事業を行いましたが，水稲栽培等への影響についての懸念が払しょくされていません。本学では，西村教授が2018年度の地域戦略協働プロジェクト事業として調整池等の水質改善を目的とした水質調査と底質を含む水質改善手法に関する発案事業を受託し，研究室の学生とともに４か所の沈砂池・調整池の水質を毎月採水し，有機物量，全窒素量や全リン量等の分析を行いました。その結果，一部の池のpHは農業用水の要望水質（稲作）（昭和45年農林省公害研究会）が示す基準値7.5を超えるものが認められました。また，全窒素（T-N）は全ての試料水で同基準値（1ppm以下）を超える傾向にあり，農業用水として適正とは判断し難い水質である可能性が示されました。今後は，水質調査を継続すると共に実行可能な浄化法の提案を探索する予定です。

三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

講　演　会

びんご圏域６大学連携講座

福山市，尾道市，三原市にある６つの大学で構成された「６大学エクステンション連携会議」は，地域内の課題解決に向けた研究及び取組みを推進するとともに，「知」の伝達を行うことにより圏域内の振興に寄与することを目的としています。

その取組みのひとつとして実施している「びんご圏域６大学連携講座」が，５月25日に福山市かんなべ市民交流センターにおいて開催されました。当日は，看護学科の岡田麻里講師が「『“その人らしく生きる”を支える』と『自分らしく生きる』をつなげる在宅介護」という題目で講演を行いました。

日本では，超高齢社会を迎えるなかで，住み慣れた地域で最期まで自分らしく生きることを支える地域包括ケアシステムづくりが推進されています。その土台となるのは，「本人の選択と本人・家族の心構え」です。講演では，誰にもやってくる人生の最期のとき，「家族にはどうしてあげたいか」「自分はどうありたいか」を元気なうちから話し合うことの大切さや，在宅看護・ケアに関わる専門職の役割についてわかりやすく解説されました。

受講者同士で行った，「人生の最期にどうありたいか」を考えるカードゲームでは，ゲームを通して真剣に考え，お互いに意思を伝え合う姿が見られました。「年代や育った環境，経験によって価値観が違うと感じた」「人の意見を聞いてみて，それも大切だと気付かされることがあった」「これを使って家族とも話し合ってみたい」等の感想があり，とても好評でした。

「どうありたいか」を伝え，「本人の思いや価値観」を共有し，「つながりをもつ」ことで，人生の最期を望んだように生きることは可能となります。家族や大切な人との対話を大切にしてほしいと講演をまとめました。

受講者同士でカードゲームを行う様子

地　域　貢　献

豪雨災害ボランティア活動

保健福祉学部の学生が，2018年７月に発生した豪雨災害の被災地復旧・復興を支援するボランティア活動に参加し，支援に貢献したとして三原市社会福祉協議会から表彰を受けました。

学生たちは，土砂や家財道具の運び出し，清掃作業に加え，学部の特性を活かして，被災された方々の血圧測定，骨密度検査，健康相談等，健康面を支援する活動を行いました。慣れない避難所生活や復旧作業の中で後回しにされている自分自身の健康について考えてもらうきっかけを作るため，教員の指導のもと，大汗をかきながら現地で作業に取組みました。健康チェックを受けた方からは，「検査の結果が知れることもいいが，このような取組みを行ってくれていることに感謝している。」「みんなとても熱心で優しいので来てくれて嬉しい。」等の言葉をいただきました。

この活動は，災害ボランティアセンターの閉鎖後も市内各所で定期的に行われています。今後も社会福祉協議会と連携し，地域のニーズに合わせて継続していく予定です。長期的に支援を続けることで，地域全体を元気にしていきたいと考えています。

感謝状

公立大学法人　県立広島大学
理事長・学長　中村　健一　様

貴学は平成三十年七月豪雨災害に際し被災地の復旧・復興を支援するボランティア活動に対し多大なる貢献をされました
その功績はまことに顕著であり
ここに心からの敬意と感謝の意を表します

令和元年六月十三日

社会福祉法人三原市社会福祉協議会
会長　真嶋　智

第１７回　脳をみるシンポジウム in 三原 開催のお知らせ

日　時：2020年３月７日（土）
場　所：三原リージョンプラザ文化ホール
参加費：無料
脳に関する身近で，かつ先進的な話題をとりあげた講演を行います。詳細は，決定次第大学ホームページ等でお知らせします。
ぜひご参加ください。

研 究 紹 介

エイジフレンドリーシティー(Age-Friendly City)の構築に向けた政策提案の研究

保健福祉人間福祉学科 講師 李 宣 英

私の専攻は，社会制度・政策の国際比較研究です。これまで，マクロ的な観点から政策分析の研究を進めてくるなかで感じたのは，制度・政策の評価を語るには直接的な利害関係者である住民（国民）の合意を得ることが重要であり，彼らの視点から政策の評価と制度の再構成を行うことが大切であるということです。また，我々が住んでいる地域社会の中には様々な問題が散在しているにも関わらず，公的支援体系の不備や資源の不足等によって，依然として「福祉」は特定の集団のためのものであるという認識が根強いと感じています。近年強調されている「互助」や「共助」を身近な地域社会の中で実現するためには，近隣の住民同士がお互いに関心をもつことが重要であるということを人々が自覚することが肝要です。そこで，私はすべての地域社会の住民自らが福祉の対象者であることを自覚することの重要性に着目して研究を進めています。

今年度より三原市の研究助成を受け，「三原市におけるエイジフレンドリーシティー（Age-Friendly City）の構築に向けた政策提案の研究」を行う機会を得ました。これは，三原市で居住している高齢者を対象としてWHOで提示しているエイジフレンドリーシティーの評価項目に基づいて分析を行い，高齢者に優しい町としての都市環境を整備していくために具体的な提案をしていこうとするものです。三原市の高齢化率は32.8％となっており，全国平均の27.7％を少し上回っています。このような状況のもとで，効果的かつ効率的な高齢者福祉政策を設計し，執行するためには，生活を営んでいる高齢者たちが自らのニーズをどのように自覚しているかを把握する必要があります。特に，高齢者の行動範囲が居住している地域を大きく離れないことに鑑みれば，彼ら自身が住んでいる地域をどのように認識しているかを把握することで，現在実施している福祉制度やサービスに対する実感を高めるにあたって有意義な示唆を得ることができると考えます。

2040年を見据えた地域包括ケア構築に関する研究

保健福祉人間福祉学科 教授 金 子 努

2040年には団塊の世代の人たちが90歳，100歳となり多死社会を迎えます。これまで経験したことのない事態を私たちは迎えることになります。

2018年12月，拙著『「地域包括ケア」とは何か ―住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこととは― 』を幻冬舎ルネッサンス新書として出版しました。出版のきっかけは，地域の社会福祉協議会主催の住民向け学習会での経験でした。その学習会では，率直な疑問，例えば「公的介護保険に頼っていられない理由とは？」「高齢化や人口減少が進んでいるのに，住民活動が期待されるのはなぜ？」といった疑問の声が出されました。その疑問に応えていくなかで，いまの地域包括ケア構築の動きについて情報を提供することの重要性を痛感しました。住民自身がいまの地域がおかれた状況を知り，そこにある課題を「我が事」として捉え取組んでいく選択の一助になればと考え，拙著を出版しました。

現在，政府・厚生労働省が推進している地域包括ケアシステム構築は首都圏を想定したものです。広島を含めた地方都市や中山間地域，島しょ部は自ら考え試行錯誤しながら取組んでいるのが実状です。こうした状況を踏まえ，この間の研究活動では，近年毎年のように起こる自然災害への対応を含め，今まで経験したことのない事態に対し，新たな発想と創意工夫によって対処していく道を探っています。

一つは，住民が地域で暮らし続けることを支えることを通して，地域に共通する課題を導き出し，現場のケアマネジャーの方々と一緒に地域づくりの方法を検討しています。二つには，介護サービス等を利用していないお元気な人たちに対する，地域の見守りネットワークの仕組みづくりに関する研究です。文部科学省科学研究費基盤研究（C）「見守りネットワークによる単身者等への緊急時対応に関する研究」（研究代表者：杉崎千洋，2015年度～2018年度）に共同研究者として参加しました。その研究成果を現在とりまとめており，2019年度に書籍を出版する予定です。

地域基盤研究機構長・地域連携センター長　ごあいさつ

地域連携センターでは，地域に貢献していくために産学官連携や学術広報，生涯学習の支援などを行っています。今年度より，地域連携センターを地域基盤研究機構に改組し，新たな体制・スタッフとなりました。

地域基盤研究機構長（新任）・地域連携センター長（再任）　市村　匠

地域基盤研究機構長及び地域連携センター長を務めています。地域連携センター長になって５年目になります。この間，地域戦略協働PJでの学生の地域活動をHPで公開し可視化し，また公開講座計画パンフレットを出版するなど，様々な活動を進めました。「信頼される大学」になるためには，まだまだ進めなければならないことがあります。そのために，地域基盤研究機構を組織しました。これからは，研究成果を地域に還元し，それを生かす活動をして参ります。

広島地域連携センター長（再任）　朴　唯新

引き続き，広島地域連携センター長を務める経営学科の朴唯新です。本センターは本学の基本理念である「地域に根ざした，県民から信頼される大学」を実現するために，主に①共同・受託研究，②相談事業，③産学官連携の交流，④キャンパスの特色を活かした地域貢献・連携を行っており，地域の皆様と異業種交流や融合化という地域連携活動を積極的に推進して行きます。今後も本センターは皆様とともに上記の使命を果たすことで，地域の活性化に努めてまいります。

庄原地域連携センター長（新任）　吉野　智之

本年４月より庄原地域連携センター長に着任しました。幅広い研究分野を有する庄原キャンパスの生命環境学部は，実験やフィールドワークに基づいた研究により，日々，新しい知見（発見･成果）を得ています。それらを地域の皆様に還元し，地域の課題解決の手助けができればと思います。また，私たちから，成果の実用化のため，地域の皆様に協力をしていただきたいこともあります。双方向の能動的な協働で行う地域連携を進めていきたいと思います。

三原地域連携センター長（新任）　金井　秀作

三原キャンパスは医療・保健・福祉という社会ニーズの高い領域に貢献出来る学科・専攻科を有しており，その教員の専門も幅広いことが特徴です。これは現在進行形の課題である地域包括ケアシステムへの貢献は当然のこと，さらに産学連携，生涯学習支援など多岐にわたる分野で地域に貢献出来る人材が揃っていると言い換えることができます。県民から信頼される大学であり続けるため今後も努力してまいりますので，皆様のご協力をお願いします。

地域連携センター報は本学ホームページにバックナンバーを掲載していますので，ご活用ください。
地域連携センターの活動についても，あわせてご覧ください。
http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/

編集後記

地域連携センター報第29号をお届けします。本号では，地域連携，研究の充実を目標に新たに設置された地域基盤研究機構を紹介しました。また，今年度はキャンパスセンター長なども一部交代しましたので，機構長，キャンパスセンター長の思いを掲載しました。新しい体制，スタッフのもと一層，地域連携を充実させてまいります。皆様のご支援，ご協力，ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。

編集発行

県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目１番71号
電話（082）251-9534 ／ E-mail：renkei@pu-hiroshima.ac.jp
http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/

各キャンパス問合せ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター[本号編集担当]
〒727-0023 広島県庄原市七塚町5562番地
電話（0824）74-1704 ／ E-mail：gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構三原地域連携センター
〒723-0053 広島県三原市学園町１番１号
電話（0848）60-1200 ／ E-mail：mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp